

第142回くらしの植物苑観察会 2011年1月22日(土)

桜草を植え替えよう

山村 聡(国立歴史民俗博物館)

桜草は、江戸時代に作り出された古典園芸植物です。江戸時代の中頃、野生の桜草の中から探し出された変わり花をもとにして多数の品種が作出されました。最盛期では300種を超える品種が記録されています。今日でも江戸時代に作出された南京小桜や駅路の鈴など多数現存しております。栽培も比較的容易で、ひと手間かけであげることで毎年きれいな花を咲かせてくれます。

今回の観察会では、体験講座として鉢植えでの基本的な植え替え方法をみなさんと共に行いながらご紹介したいと思います。

桜草の植え替え方法

準備するもの：鉢、培養土、ふるい、ラベル、鉛筆など。

- 1、鉢：素焼き鉢、塗り鉢、山野草鉢、プラ鉢、ビニールポット、プランターなど。
(桜草では孫半斗鉢と呼ばれる浅いつぼ形のものが、一部使われています。江戸時代では味噌や塩を入れる日常雑器であったこの容器の底に穴をあけて、植木鉢として利用されていました。)
- 2、培養土：一般に販売されている草花用土、菊や朝顔などの残土など。
(植物苑では赤玉土の小粒と腐葉土を6：4の割合で混ぜ、元肥に緩効性肥料を10に3gを入れたものを使用。)
：鉢底石は軽石・赤玉土などの中・大粒。
- 3、昨年鉢から出し、培養土と桜草とに分ける。



- 4、芽分け作業を行う。芽の大きさ(大・中・小)に分ける。生育の良いものは1芽から3～5芽に増えることがある。



- 5、鉢底石を敷き、培養土を鉢の半分ぐらいの高さまで入れる。芽分けした大(1番芽)を追いまわし式に並べる。芽の配置(高さ・位置)に気をつけ、芽を押さえながら培養土をかける。



- 6、鉢の上縁(ウォータースペース)を2～3cm程開けておく。植え替え後の生育状態と開花。



- 7、花後、増し土作業を行う(とても重要な作業です!)。性質上、新芽が表面に伸びてきますので、新芽の乾燥を防ぐため1～2回に分けて培用土を足してあげる。〈そのために、鉢の上縁(ウォータースペース)を2～3cm程開けている。〉

.....

次回予告 第143回くらしの植物苑観察会 2011年2月26日(土)

「漆(うるし)の魔力」 平川 南(国立歴史民俗博物館長)

13:30～15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要